

平成28年度 群馬パース大学 FD活動報告書

平成28年度は、前年度までのFD活動を継続するとともに、学外実習科目の授業評価の開始、平成29年度に予定されているカリキュラム改正に向けた教育能力の向上を重点目標に掲げ、活動を展開した。

1. 学生による授業評価の取り組み

(1) 授業アンケート（講義・演習科目）の実施と結果の公開、及び授業改善計画の集約

例年どおり、学生による授業アンケートを各学期終了時に実施した。平成28年度前期の学部全体の回答率は91.2%で前年度よりも3.0ポイント上昇した。しかし、一部の学年、学科の回答率が70%台に留まり、実施方法の改善、工夫の必要が認められた。結果については、授業科目毎に「授業アンケート集計・分析結果シート」を作成して授業科目担当教員へ還元するとともに、集計結果をpdf化し、自由記載も含めてホームページ上で広く閲覧できるようにした。また、アンケート結果に基づく授業改善計画の提出を、授業科目毎に担当する教員に求めた。

(2) 授業中間アンケートの実施

例年どおり、授業期間中において学習状況の確認と授業の改善すべき点の明確化を図り、授業改善の機会を保障することを目的とする授業中間アンケートを「推奨」の形で実施した。実施状況については、「授業アンケート集計・分析結果シート」に基づく授業改善計画の提出と併せて調査し、平成28年度前期の実施科目数は96科目中22科目（22.9%）であった。但し、未実施科目の内、実施しなかった理由の記述として「ミニッツペーパー・提出物等」を代用している旨、回答した科目が38科目あったことから、実質60科目（62.5%）が何らかの方法で学生の意見を形成評価に反映させていたと評価できる。

(3) 学外実習評価アンケートの計画立案・実施

学外実習用授業評価について一昨年度から準備に着手し、評価用紙試案の開発、試案を用いたパイロットスタディ、パイロットスタディの結果に基づく評価用紙の確定、具体的な実施計画の検討、関係部署との調整等を経て、今年度は、1学科において評価を実施した。また、未実施の学科についても、それぞれの実習形態等に応じた調査票案の検討、学科内の意見調整が進んだ。

2. FD研修会・FDワークショップの開催

(1) FD研修会・FDワークショップの開催

平成28年8月18日(木)、FD部会主催の平成28年度群馬パース大学FD研修会・ワークショップ「実践例から学ぶグループワークを取り入れた授業展開の方法と課題ー『大学の学びー専門への誘いー』の開講に向けてー」を開催した。テーマに取り上げた「大学の学びー専門への誘いー」は、平成29年度に予定されている新学科開設、及び既存学科のカリキュラム改正に当たり新設される授業科目であり、全教員が参画し、専門領域に関するグループ学習を通してコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、チーム医療の基礎を培う内容を盛り込むことが予定されている。第1部研修会、第2部ワークショップの2部構成とし、第1部研修会では、本学カリキュラム検討部会責任

者 中徹教授から当該科目の意義が説明され、検査技術学科長 藤田清貴教授から初年次学生を対象とする課題解決型グループワークの実践例が紹介された。続くワークショップでは、目的達成に向けた効果的なグループワークの企画・運営・評価方法等について、班別に分かれてディスカッションを行い、いずれの班も積極的に意見交換がなされた。終了後の参加者アンケートでは、第1部 96.7%、第2部93.4%が「参考になった」と回答し、次年度の当該科目開講に向け有意義な時間が持たれたことが確認された。

3. ピアレビューの実施

ピアレビューは開始から4年目を迎え、参加者固定化の解消、評価の視点の導入等の課題に順次取り組んだ。参加者の固定化に対しては、平成28年度からピアレビュー実施期間を前期、後期各2週間から各3週間に拡大したが、参加者層の大きな変化は見られなかった。今後は通年の実施、参加の義務化について検討していく予定である。評価の視点の導入については、見学者は見学後の感想を記載し、公開者はその感想を基に授業の振り返りを行うとともに見学者への書面による回答を行うという従来の結果共有の方法を一步進め、見学者が用いるための評価票を作成し、平成28年度後期から導入した。今後は、新しい評価票の実用性、授業改善の効果等を検証していく。

4. 定期的なFD部会開催とFD活動報告書の作成、年報への収録

月1回定例にて会議を開催し、FD活動の企画・運営、情報収集など実施した。その結果は議事録に蓄積するとともに、本報告書にまとめた。本報告書は2016年度年報に収録する予定である。

5. FDネットワーク“つばさ”など外部セミナーへの参加による情報授受

FDネットワーク“つばさ”に参加し、他大学の教職員とFDに関する諸問題及び対応策と問題意識を共有した。また、「学生FDサミット2016」（平成28年3月、日本大学）に参加し、本学でも引き続き学生FDの導入に向けて、情報を収集していくことを確認した。

6. 今後の活動について

平成29年度は、教育に関連する新しい情報に広く目を向け、適切に取り込みながら、前年度の取り組みを継続、発展させることを基本方針とする。各事業の重点課題と取り組みの方策は次のとおりである。

(1) 学生による授業評価

重点課題：対象科目の拡大と形成的評価の強化

取り組み：①学外実習評価アンケートを実施する学科、授業科目の拡大

②授業中間アンケート実施率向上に向けたPR活動

(2) FD研修会・FDワークショップ

重点課題：教育に関連する最新情報の共有と、教員のニーズに沿った体験的学習の拡大・充実

取り組み：①年間1回以上のFD研修会の開催

②年間1回以上のFDワークショップの開催

(3) ピアレビュー

重点課題：参加者固定化の解消と授業改善への活用

取り組み：①授業公開期間の見直し

②参加義務化の検討

③見学者による授業評価導入の影響及び効果の検証

(4) 定期的なFD部会開催とFD活動報告書の作成、年報への収録

重点課題：FD活動におけるPDCAサイクルの循環

取り組み：①FD活動報告書によるFD活動実績と今後の方針の学内への周知

②FD活動に対する継続的な意見集約とフィードバック

(5) FD活動の活性化・充実化に向けた情報授受

重点課題：持続的な情報授受と学内への迅速な発信

取り組み：①FDネットワーク“つばさ”及び他大学のFDセミナー等への参加

②反転学習、ITを駆使した授業等、最新の授業ツールに関する情報収集と学内への発信

③ホームページ等による本学のFD活動に関する学外への情報発信

④FD-SD連携に関する情報収集

⑤授業改善活動への学生の参画のあり方に関する情報収集